

東京聖栄大学第5期生学位記授与式



三月二十日に学位記授与式がわたなべ記念館において挙行されました。第五期生一一七名が聖栄会に入会されました。心からお祝い申し上げます。



聖栄会だより

発行 東京聖栄大学同窓会
聖栄会
編集 東京聖栄大学
聖栄会本部事務局
〒124-8530
東京都葛飾区西新小岩1-4-6
TEL 03-3692-0211 (代)
<http://www.tsc-05.ac.jp/seieikai/index.html>

ご挨拶



聖栄会会長
荻野 薫子

一昨年発生した東日本大震災の被害は、未だ宅地や農地の除染はされず、森林、水産物にもたらし、めどがたないと言われています。新聞を見てると怒りがこみ上げてきますが、新政権は安全より経済成長に重きを置くかのように、政府の審議会か

ご挨拶



名誉会長
福澤美喜男

寒かった今年の冬も何時しか暖かくなり、会員の皆様には会報を通してご挨拶をする時期になりました。皆様には、日々職場で、あるいは地域でご活躍のことと拝察しております。

まず第二十六回管理栄養士国家試験の合格率ですが、九三・七％であり、全国管理栄養士養成課程の平均合格率九一・六％を一昨年引き続き、上回りました。これも偏に管理栄養学科の先生方のご指導に学生諸君が応えた結果だと思っております。なお、既卒受験生の中で、同窓生の受験者数が他の養成校に比べて極めて多く、大勢の同窓生が職場で働いていることがわかりま

ら脱原発派が次々と外されていると聞きます。未曾有の東日本大震災を風化させるようです。その為に青少年にメルヘン絵本を作り、読み聞かせの会が開催され、広がりつつあるとの事です。地震が太平洋側の地域に多いのは、近い将来、首都直下地震や駿河湾から九州沖にのびる海底のくぼみ「南海トラフ」で、巨大地震が起きると見られているとのことです。日頃、心しておきましょう。

その後、皆様には如何お過ごしでしょうか。ご案内申し上げます。今年、故渡邊富久子先生の十三忌の年です。平成十三年四月二十二日、夜、十時過ぎ、耳を疑うような学園長渡邊富久子先生が逝去なされた一報が入り、身の崩れる、沈痛な思いで、「幾年も教えを請うた師は何処御霊となりて花筏ゆく」とお送り申し上げて、月日も早や十三忌を迎えようとしています。今、学園は魅力ある教育内容に向けて施設設備拡充のため、第七号館建設工事中の只中です。これもひとえに、富久子先生が学園の発展を見守って下さっておられるからです。これから学園の発展をお願い申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

三月二十日に東京聖栄大学第五期生一一七名の皆様にご卒業なされ、聖栄会会員としてお迎えすることができました。心よりお喜び申し上げます。卒業生の皆様は

ですが、残念ながら合格率は低い状態です。その為、勉強を手助けする意味で、管理栄養学科の国試対策室では昨年卒生に對しても受験指導を始めました。是非国試を受験しようとしている人は国試対策室に連絡して、傾向と対策の指導を受けることを奨めます。なお、国試対策室の電話番号は(03)3692-0211・内線152で担当は専門八期の福山(旧姓:酒川)君子さんです。なお、不在の時は事務課に連絡を取ってください。

次に、今年度の入学状況ですが、両学科とも定員以上の新生を迎えることができました。なお、入学式は四月一日行います。大学の単位認定が十五週の授業を行い、十六週目に試験をするので、以前よりも学事日程が詰まり、小学校よりハードスケジュールになっていきます。

大学を創立して九年目になりますが、どの大学でも七周年に一度大学の質を評価する第三者機関で受審しなければなりません。本学は七年目に当たる一昨年十月に日本高等教育評価機構の評価を受審し、昨年三月に「大学としての評価項目をすべて満たしている」との評価を頂きましたので、

社会貢献度の高い教育を身に付けられ、未来への希望は大です。学び舎の校訓である、「熱意・誠意・創意」を心に刻み、これからの人生をしっかりと歩んでください。卒業式では学長先生の式辞を始め、ご来賓の先生からの心温まるはむけのお言葉を頂き、社会への第一歩を踏み出されました。これからの活躍をお祈りいたします。第五期生の役員として、小田亜紗子さん、黒敷成美さん、山中咲さん、宮島美瑠さんが選出されました。

本年度の聖栄会総会ならびに懇親会は、六月二日に大学構内で開催されます。皆様お誘い合わせの上ご出席ください。

なお、今年度も学友会主催の体育祭で、恒例になった「会長賞」「チームワーク賞」を聖栄会から贈呈いたします。また、第二十五回食文化研究会は、十月六日に那須にあるアワズダイニング、ココファームを訪ねるバス旅行を企画しております。秋に開催される聖栄会祭では、学友会主催の餅つき大会に協賛し、別館四階でお抹茶席を設けて、皆様のお越しをお待ちしております。

最後に聖栄会と母校の発展を願ひ、会員の皆様のご活躍とご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

大学の基礎は一応固まったと考えたことと丁度学長以下の後継者の任期もこの三月で終えることから、学長職を後進に譲ることを考え、その旨を理事会に伝え、学長候補者推薦委員会の設置をお願いしました。その後委員会が組織され、学内外の候補者について審議された結果、同委員会から学長候補者として松本信二教授(現・健康栄養学部長)が推薦されました。理事会はこの人事案を満場一致で承認し、次期学長に松本信二教授が決定しました。更に新学部長には阿左美章治教授が、図書館長に岡田弘教授、管理栄養学科長に田所忠弘教授、食品学科長に丸井正樹教授がそれぞれ承認されたので、四月からはこの新体制で大学が運営されます。

最後になりましたが、同窓生の皆さんにお願いしたいことは、同窓会活動が活発な大学は発展しています。願わくは聖栄会の活動を活性化させて欲しいのです。その為にはまず役員が揃う必要があります。また本学に勤務する同窓生の職員にも積極的に参加して同窓会を盛り上げるようにして下さい。この二つのことをお願いして挨拶いたします。

平成二十四年度 聖栄会総会開催

平成二十四年度 聖栄会総会が、六月三日（日）、東京聖栄大学に於いて開催されました。

山本氏（大二）の開会の挨拶で始まり、高橋氏（専七）と立川氏（短三）が議長に選出され、議事に入りました。

荻野会長（専二）より次のような挨拶がありました。

「平成二十二年五月二十一日に草間正夫先生が逝去されましたので、ご報告いたします。七月四日にご連絡いただきましたので、お悔やみ状をお送りいたしました。ご冥福をお祈りいたします。昨年三月十一日の大震災は未曾有の災害となりました。関係者の皆様には改めてお見舞い申し上げます。

また、大学四期卒業生百二十七名を同窓会員として新たに迎えました。

就職率は九〇・九%と高く、本学の管理栄養士国家試験の合格率は九三・七%となり、今までの中で一番の合格率でした。

聖栄会の活動では体育祭の協賛、食文化研究会、大学祭の協賛をいたしました。」

引き続き、報告、議事と進行されました。

荒木氏（短九）から二十三年度事業報告、哥氏（短三十九）から二十三年度会計報告があり、会員の拍手を以って承認されました。続い



て二十四年度事業計画案と予算案が提出され、それぞれ承認されました。

第二十四回 食文化研究会開催される

今回の食文化研究会はフランス料理の研修で、東京會館伝統のフランス料理について学びました。都心とは思えない静かで落ち着いた雰囲気のある如水会館の宴会場で、料理長のお話と解説をお聞きしながら、オリジナルコース料理をいただきました。前菜の一品として「サーモンと梨のハーモニータルタル仕立て」が出され、続いて「蛤のスープ グラタン仕立て」と出され、デザートまでの全てのお料理のおいしさや盛り付けの美しさに感動し、参加者の皆さんはメモを取ったり写真に収めたりしていらつしやいました。



第二十五回 食文化研究会開催について

平成元年から開始された食文化研究会も本年で二十五年を迎えます。第一回の開催から多くの会員の皆様にご参加・ご協力頂き、様々な分野の食文化について学んできました。

本年度は二十五回を記念して左記の通りバス旅行を企画いたしました。今回の食文化研究会のテーマは「おいしい料理は食材からつくろう！」の著者でもある濱口 正遠氏の料理を学びます。濱口氏は那須にある「アワードライニング」のオーナーシェフでもあり、身体と心にやさしい料理を作り出すそのセンスは誰も真似ができません。食文化研究会のためのメニューを作っていたいただき、濱口氏の素材から（調味料や加工品などを含めて）作り出す料理の数々を学んでいただきます。また、足利にあるワイン工房「ココファーム」に立ち寄り、ワインの工場見学、ワインの試飲もしていただきます。今回は会場の関係で二十名の募集となりますので、お早めにお申し込みください。

記

平成二十五年十月六日（日）八時三十分集合（時間厳守）

出発時間 九時

集合場所 東京聖栄大学一号館 中庭

参加費 九〇〇〇円（バス代、食事代、保険代等を含みます）

募集定員 二十名（定員になり次第募集停止します）

ご参加希望の方は東京聖栄大学食品学第二研究室・荒木か総務課飯田までお申し込みください。

電話番号 〇三―三六九二―〇二二一（内線六〇五）

幹事 短大九期 荒木

平成二十五年定期総会開催のご案内

平成二十五年の定期総会ならびに懇親会を左記の通り開催いたします。

◎日 時 六月二日（日）

定期総会 十一時から

懇親会 十二時三十分から

◎会 場 総 会 東京聖栄大学別館四階会議室

懇親会 多目的ホール

◎懇親会費 一〇〇〇円

懇親会は多目的ホールで開催いたします。皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

（同封のハガキで五月二十日までにお申し込みください。会費は当日いただきます。なお、欠席される場合でも必ず委任状をご投函願います。）

再発見！ 母校の魅力

このコーナーでは、母校の最新ニュースをご紹介します。

第一回は震災支援への取り組みです。

高橋成彰事務部長よりご紹介いただきました。

専門性を生かして被災地支援

本学は、「聖栄葛飾祭」での東北応援企画・福島県瑞町（はなわまち）の特産品販売をきっかけに、①学生グループによる瑞町活性化提案、②瑞町の東京アンテナショップ「ダリちゃんショップ」への応援（本学4号館横にオープン）、③専門教員による新しい特産品開発支援やパツ

ケーシングに対する技術指導、④本学施設を使った講習会（竹パウダーを使用した栽培した瑞町特産イチゴを使ったオリジナルジャム作り講習会）など、様々な支援活動に取り組んでおり、瑞町町長はじめ、多くの町民の皆さんからの感謝をいただいています。

管理栄養士 国家試験に チャレンジ している皆様へ

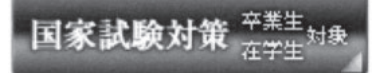
卒業生の国家試験対策を実施しています。

ホームページで卒業生用国試対策を開始しました。

管理栄養士国家試験に合格するために模擬試験を受験したい方はどうぞ!!

TEL:03-3692-0211(内線152)

http://www.tsc-05.ac.jp/



↑ここから入れます。



ダリちゃんショップオープニングセレモニー



瑞町学内研修

同窓生通信

長年の夢の実現に向かつて



専門七期
佐藤 悦子
(旧姓 西原)

昨年の秋、箱根湯本の一泊旅行、聖栄セブン会が実施されました。いつも、きめ細かい計画を立てて先導してくださる友人のエネルギーが無ければ旧友と会うことも無かつたらうと心から感謝しています。福祉学長は残念ながら体調不良で急遽欠席されましたが、参加者総勢十八名が七十歳以上というパワフルな方々の集まりになり、夜遅くまで無邪気にはしゃいだ一時を思い出しては、笑みをこぼしています。次回は「長野県で逢おう」と決まりましたが、全員が元気に再開できることを祈らずにはおれません。

私は現在、在宅へ訪問して栄養相談を行う「管理栄養士が行う居宅療養管理指導」業務に就いています。病院歴二十五年後、特養、養護、通所、地域包括支援センター、訪問給食、訪問入浴、訪問介護、診療所を持つ複合施設に所属しています。栄養士（管理栄養士）歴五十年を通過点として夢を追いかけける道のりに幸せを感じながら歩いています。病院から福祉に替わって頭に叩き込んだことは、「食べてもらえなかつたらお年寄りが死んでしまう」「どんな状況におかれても食べられるおいしい食事が必要なのだ」でした。その思いが、低栄養対応食やプレ鼻腔食（鼻腔にさせないペースト食）やアシスト食（要望の食を揃え食を復活させる食事）に繋がり、現在の栄養ケア・マネジメントに展開して

いったように思います。また、平成十年に始めた地域活動に参加下さるボランティアさんの食事が、福祉施設の食事比べ貧困なことを危惧して、在宅に栄養士（管理栄養士）を進出させたいという思いを抱きました。同じ志を持つ数人で「在宅チーム医療栄養管理研究会」を立ち上げ、現在に至る活動を行っています。その思いが東京馬主協会の補助金で専用厨房が出来、病態・機能対応別の配食サービス開設にこぎつけられたと思います。今では地域住民協働の楽夢食・げんき食（食支援活動）や昭島NST（食のサポートチーム）へと展開しています。え

超高齢化社会を支えるであろう居宅療養管理指導を担える人材育成のため、在宅への同行訪問研修を受け持っています。この二年間、啓蒙活動のため全国を廻っていますが、ケアタウン構想が生まれ始め、その中に食が重要な位置づけであることを気付か始めています。私の現役中に、栄養士（管理栄養士）が在宅へ進出して活動する状況を見てみたいと果てしない夢を追いかけている自分があります。

人は、人とのふれあいの中で、人に感銘し、影響され、一つの思いや夢が作られるように思います。その土台が培われたのが聖徳栄養専門学校です。寮生活での先輩の思いやり、助け合った友人との絆、当番で作った寮生のご飯、羽根を伸ばした遊びで得られる面白さと喜び、先生の教訓、今更ながら、ありがたいこと感謝いたしております。

学生時代の思い出



短大九期
樋口 玲子
(旧姓 鈴木)

私が聖徳栄養短期大学を卒業して早四十年が過ぎました。その当時は五人部屋（先輩二名、同級生三名）で畳の相部屋での寮生活のスタートでした。朝食と夕食は当番制で自分たちが献立を立て、調理も全て寮生が行なっていました。風呂、トイレ、洗面所は共同とすべて始めての事で一寸戸惑いもありました。しかし、寮生活で得た友とは、バイトをしたり、学生割引切符を利用したユースホテルめぐりの旅にも出たり、自主的に病院で実習したりして、大学生活をエンジョイしました。

学校での学びで思い出すのは、調理実習で一分間できゅうりの薄切りが何枚できるか、オムレツはうまく焼けるか、澄まし汁の味付けはどうだろうかと、先生が一人一人採点してくれ、きめ細かな指導をしていただきました。おかげで包丁さばきが大変上手になったことがうれしかったです。それに実習を兼ねた昼食作りが当番制で一週間課せられました。この一週間は座学では学べない多くのことが学ぶことができ、とても良い思い出です。

なぜ栄養士を目指したかと言いますと、当時キッチンカーなどで新商品の料理を地方に広めるといふ仕事があり、その仕事をしたいと考え、母校に入学しました。しかし、卒業後に就職したのは病院の栄養士（日本医科大学第一病院）で、おもに治療食とドック食を担当していました。今でも一番思い出に残っていることは、透析食の献立を作成し調理し、いかに患者さんに回復してもらうことかでした。その頃の透析食はかなりの水分制限、高カロリー食で、ゼリー、揚げ物、アップルパイ、お好

東京聖栄大学で出会った人々への感謝



大学二期
矢島 克彦

学び得た知識は後で必ず役に立ちます。最後になりましたが、東京聖栄大学をはじめ聖栄会のご発展をお祈り申し上げます。

早いもので、大学二期生として東京聖栄大学を卒業しようとする四年目を迎えようとしております。平成二十四年四月より、私は本校の助手として働いております。在学していた頃は、このような形で母校に戻ってくる事になるとは全く予期していませんでした。私が母校で働く決心をしたのは、お世話になった先生方や大学で巡り合えた友人達への感謝と、その出会いを与えてくれた母校への感謝の気持ちからです。

私は本学を卒業後、大学院に進学しました。もともと栄養素が身体に与える影響に興味をもち、栄養学部に進学してきた私は、本学の先生方より栄養学の基礎を学びました。そして研究意欲を持つようになり、更には阿左美章司教授や渡邊博教授の後押しもあり、生理学分野の研究機関では最高峰である筑波大学大学院に合格することができました。また、この合格の裏には、「大学院受験をする」という私の個人的な事情を理解し、学生生活やクラスでの仕事など私に余分な負担がかからないよ

う、惜しまず協力をしてくれた友人達の支えがありました。大学の友人達は卒業後も私の助けとなってくれました。筑波では研究に没頭する傍ら陸上競技部に所属し、少年期からの憧れであった箱根駅伝最終予選会に筑波大学大学院代表として出場させていただくことができましたが、その際にも大学の友人達が応援に駆けつけてくれました。何千人という沿道の観客のなかで友人達の応援ははつきりと聞こえ、自身十年間の陸上競技生活の集大成として全力を出し切ることができました。そして、学外から駆けつけてくれた応援者の人数は、チームの中でも私が最多であり、人生で最も幸せな思い出の一つとなりました。

本校在学時も、大学院での研究生活も、うまくいかないことのほうが多く、挫けそうになることも多々ありました。それでも私が今こうして乗り越えてくることができたのは大学時代の友人達のおかげです。学生時代に一生モノといえる友人を得ることができた私は恵まれていると強く感じます。この先も私は何度も挫けることになると思いますが、感謝の気持ちを忘れずに乗り越えていきます。そして私も同じように友人達の支えになれるよう日々精進していきますながら、大恩のある母校にて後輩たちの育成に勤めていきたいという想いです。

最後になりましたが、東京聖栄大学を始め聖栄会のみなさまのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

お知らせ

●入試説明会

6月29日(土)

●オープンキャンパス

第1回	7月13日(土)
第2回	7月20日(土)
第3回	8月23日(金)
第4回	8月24日(土)
第5回	3月25日(火)

●受験相談会

第1回	10月26日(土)
第2回	11月9日(土)
第3回	11月10日(日)
第4回	11月30日(土)

お問い合わせは
電話03-3692-0238
入学相談室まで

◆聖栄高節祭のご案内

本年も聖栄高節祭が母校で開催されます。皆様お揃いでお出かけください。聖栄会では別館四階の会場でお茶席を開きます。ご来場いただいた皆様はゆつくりと寛いでいただきたいです。会員以外の方、本学の学生の皆さんも大歓迎です。是非お越しください。

日時/平成二十五年
十一月九日(土)～十日(日)

第五回卒業研究発表会の開催

二月九日に第五回卒業研究発表会が開催され、各研究室から計二十六報の研究発表がありました。研究成果の一部を紹介します。

- 食品加工学研究室 (片山講師)
- ・ 寒天を用いたゼリーの開発に関する研究
- 食品学第二研究室 (荒木准教授)
- ・ 压榨方法の違いによるジュースの機能性について
- 食品学第一研究室 (筒井教授)
- ・ 脱脂エゴマを使ったクッキーの製造
- 微生物学研究室 (丸井教授)
- ・ 葉の抗菌効果
- 調理科学研究室 (品川教授)
- ・ 食べ物のアレルギーについて
- 食品開発研究室 (井筒教授)
- ・ 米粉の用途拡大
- 食品衛生学研究室 (眞木教授)
- ・ 食品の有害物質に関する衛生学的研究
- 栄養学研究室 (前田教授)
- ・ 物の塩分耐性と植物由来塩分の利用についての検討
- 調理学第二研究室 (吉田講師)
- ・ 塩町復興支援と商品開発―ダリア塊根を使った商品開発

管理栄養学科 宿泊研修 (八王子セミナーハウス)

管理栄養学科新入生研修は4月5日～6日に八王子セミナーハウスにて実施されました。セミナーハウスでは、管理栄養学科の導入教育として班毎にグループワークを行い、大学生活を共に過ごす初対面の仲間達と交流を深めると同時に、管理栄養士という職業に対する理解を深めました。夜には懇親会、翌日には相模湖プレジャーフォレストにてバーベキューを行い、学生同士、そして学生達と教員との信頼関係を構築する有意義な時間を過ごすことができました。



食品学科 海外食事情研修

2月10日～18日に行われ、今年度はフランスのパリ、パリ郊外に行きました。1年生から3年生の12名が参加し、ヨーロッパの文化・食事情を視察しました。パリ市内、ベルサイユ宮殿の見学、郊外の農家レストランでは食事とデザートの実習を行ない充実した研修を終えました。



体 育 祭

平成24年5月28日、船橋グラウンドに於いて体育祭が開催され、聖栄会は協賛参加しました。当日は天候にも恵まれ、全プログラムが滞りなく終了し、クラスの親交を深めた一日となりました。聖栄会では総合優勝した2クラスにチームワーク賞を、出席率が最も良かった1クラス (出席率100%) に会長賞を授与しました。



食品学科 新入生宿泊研修 (日光)・フィールド研修 (長野県伊那市)

食品学科では、新入生宿泊研修が葛飾区日光林間学校で実施されました。新入生は食品学科での4年間の「学び」についてのガイダンスを受け、また日光東照宮拝観や工場見学なども行い、食品学科教員や新しい友人との親睦を図ることができました。



また、夏には長野県伊那市において食品学科のフィールド研修が実施されました。宿泊施設に隣接された東京聖栄大学農地には、多種類の野菜が栽培されており、1年生は野菜の収穫作業や農地の整備などを体験しました。このフィールド体験には食に関する多くのプログラムが用意されており、食品工場見学や蕎麦打ち・ソーセージ作り、郷土料理体験など1年生は真剣に取り組み、大学のキャンパスでは経験できない貴重な3日間となりました。



聖 栄 葛 飾 祭

平成24年11月3・4日に、『聖栄葛飾祭』が開催されました。今回のテーマは「野菜を食べて愛されBody ~ 350g / 日 ~」で、各模擬店では1食に含まれる野菜の量を掲示するなど、趣向を凝らした装飾がなされました。聖栄会では、毎年恒例のお茶席を設け、多くの卒業生が来場されました。また、学友会主催のチャリティーもちつきにも協賛参加しました。



平成25年度『聖栄葛飾祭』の詳細は大学・聖栄会のホームページをご確認ください。多くの卒業生の方のご来場をお待ちしております。

